

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 4 回相模原市街路樹の管理方針・計画の策定に関する審議会		
事務局 (担当課)		路政課 電話 0 4 2 - 7 0 7 - 7 0 5 0 (直通)		
開催日時		令和 8 年 2 月 2 6 日 (木) 午前 1 0 時 0 0 分 ~ 1 1 時 5 0 分		
開催場所		相模原市民会館 2 階 第 2 大会議室		
出席者	委員	1 1 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	8 人 (土木部調整官、路政課長、外 6 人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	2 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		(1) 第 3 回審議会の振り返り (2) 答申について (3) 今後のスケジュール・進め方 (4) 相模原市街路樹管理計画の策定に向けて		

議 事 の 要 旨

審議会の冒頭、出席委員の人数が定足数に達していることを確認した。
主な内容は次のとおり。

議題

(1) 第3回審議会の振り返り

事務局より説明を行った。

(2) 答申について

事務局より説明を行い、次のとおり意見等があった。

(伊藤紀子委員) 方針案23ページの「方針2 シンボル並木の形成」について、「都市のブランド力の向上に努めます。」との記載があるが、市役所前通の桜並木は景観法に基づく景観重要樹木に指定されているにも関わらず、約1.5kmの桜並木の中に9か所のごみ集積場所がある。様々な会議の場でごみ集積場所の問題を挙げているが、会議の本題ではなかったということもあり、解決されないままとなっている。

「都市のブランド力の向上」に取り組んでいくのであれば、桜並木の中にごみ集積場所があるということは望ましくないと思う。決められた日に排出しない人がいたり、カラスにごみを荒らされたり、カラスのフン害があったりと、景観重要樹木の桜並木としては残念な状況である。

利用している方々に対して、住居の近くにごみ集積場所を移動してもらえよう、ぜひ市から指導していただきたい。

(路政課長) 市役所前通の桜並木については、来年度に策定する管理計画の審議の中で、対応策等をご議論いただきたいと考えている。また、路政課では、ごみ集積場所の設置について、環境部門と考え方の整理を進めており、審議会での議論と並行して、しっかり検討していきたい。

(伊藤紀子委員) ごみ集積場所が別の場所に移動することを期待している。「街路樹管理方針」の策定をきっかけとして、市民と一緒に考えてもらいたい。

(伊藤裕子委員) 公募市民として審議会に参加し、街路樹について知らなかったことも多く、私自身の勉強にもなってありがたかった。

会議では様々な資料を提示してもらい、図表や写真で「見える化」するなど、分かりやすく工夫されていたが、個人的な意見として、色合いがきついように感じている。例えば、方針案19～20ページの赤や黄の色が強いと感じる。

(池邊会長) ご意見のとおり、派手な色合いが使われている。事務局で彩度を落とすなどの対応を行うことができるか。

(路政課長) カラーバリアフリーの観点から、どなたにも見やすい色づかいということにも配慮しつつ、彩度を落とすなどの対応をしたい。

(辻野委員) 方針案25ページ下段左側の写真について、説明文に「沿道住民からの苦情を未然に防止するための更新」とあるが、表現が適切でないのではないかと。市の姿勢として、苦情から逃れるために更新すると受け止められてしまわないか心配である。

(路政課長) 前ページの「⑤ 落ち葉による排水障害や害虫などが発生しやすく苦情が多い路線」に対応する説明文としたが、事務局内でも議論があった箇所であり、ご意見を踏まえて修正を検討したい。

(土木部調整官) 市では、答申書の受領後、庁内で検討を進め、市としての「街路樹管理方針」を策定することになる。先ほどの色合いへのご意見やこの説明文へのご意見については、庁内検討の中で修正等の対応をさせていただきたい。

(池邊会長) これだけ多くの写真を入れている答申書は他にはあまりなく、市民の皆さんにとって分かりやすい答申書になっているのではないかと思います。

(伊藤紀子委員) 方針案25ページ「排水障害を解消するための更新」の写真を見て、「こんなにたくさんの落ち葉があるんだ」と思った。私たちは街美化アダプト活動の推進に取り組んできて、市役所前のさくら通りでは活動団体を8団体まで広げ、落ち葉配布も行えるようになった。写真のケヤキ並木では、街美化アダプト活動が行われていないと思う。街美化アダプト活動は、自分たちのまちを自分たちできれいにする活動であり、5人以上の団体として活動を始めれば、市から用具などを助成してもらえる。制度を知らない市民もまだまだいると思うので、もっと活動が広げられるよう周知等に取り組んでもらいたい。

(池邊会長) 街路樹に対して「OURS (私たちの)」という意識はあまりなく、苦情があれば市役所に電話すればよいという考え方になってしまっている。街美化アダプト制度などをきっかけに、「OURS (私たちの)」街路樹ということを考えるきっかけになるとよいし、来年度策定する管理計画にもそうした考

えを盛り込むことができればと思う。

(田嶋委員) この方針案は、今後、市民の皆様にも公開されるという理解でよいか。

(路政課長) 答申書の受領後に庁内検討を進め、市としての「街路樹管理方針」を策定した際には市ホームページ等で公表する。

(田嶋委員) 方針案14ページや25ページのチャドクガの幼虫の写真について、拒否反応を示す方がいる可能性もあるため、幼虫の写真をここまで直接的に掲載してよいかどうかについては、庁内検討の過程で構わないので、ご判断いただきたい。

また、答申書の内容に関わることではないが、審議会ではこれまで非常に丁寧に分かりやすく説明していただき、大変ありがたいと感じている。一方で、この審議会は街路樹という「自然」を議題にし、相模原市全体としてもサステイナビリティやCO2削減などを考えなければならない中で、私はこのような会議に出席した際は毎回お願いしているのだが、コピーで消費するエネルギーや紙の資源を考慮し、紙の資料についてはできるだけ削減した方がよいと考えている。

資料として不十分では困るが、私個人についていえば、紙資料ではなくPDFデータで送ってもらえれば十分である。データ送信に当たってセキュリティ上の課題があるならば検討が必要だが、小さなことからでもサステイナビリティについて考えていくべきであり、今後検討していただければと思う。

(路政課長) 田嶋委員のご意見のとおりであると受け止めている。4月以降の審議会では、会議資料のデータでの送付について、皆様のご意向を確認することを考えたい。

(土木部調整官) チャドクガの写真については、麻布大学前の路線のツバキに毛虫が発生しているとの苦情があり、消毒を朝に行うということが以前にあったものである。近年は猛暑の影響か、チャドクガはそれほど発生していないようである。写真のインパクトが強いと思うが、市民の皆様は課題を認識していただきたいという考えで掲載しているものであり、掲載の可否については庁内で検討したい。

(池邊会長) 街路樹について、委員の皆さんは関心をもって見ていただいている

と思うが、一般の市民の皆さんは、街路樹に害虫が発生することを知らないし、街路樹の根が下水管を詰まらせるとは考えもしないのではないかと思う。来年度に管理計画を策定するに当たり、この答申書では現状の課題を市民の皆さんに理解していただくことが大事だと思う。

田嶋委員からお話のあった紙の削減等について、「街路樹管理方針」の最終版は、市においてPDFデータでダウンロード可能な形にするのが一般的ではないかと思う。

(吉田委員) これまでの審議結果について、方針案の形に仕上げていただいた事務局、担当の皆さん、本当にお疲れ様です。

先般、横山地区の主要な通りの街路樹がきれいに剪定されていた。車道側は強く、歩道側は民地に張り出さない程度に控えめに剪定されており、地域からは気の利いたよい剪定だとの声が聞かれた。

先ほど伊藤紀子委員の仰った街美化アダプト活動に関連して、人を育てなければならないと考えている。以前の会議で「木の人生」を考えるということを上申したが、同じ時間軸で30年から50年をかけて、人を育てるということにも取り組まなければならない。

行政に対して何でも苦情を言うのではなく、住民一人ひとりが関心を持ち、自分たちのまちを自分たちで綺麗にしていく、素敵なまちにしていくということ、そうした「シビックプライド」を育てていくことが、街路樹も人も一緒に育てていく市民参画型のまちづくりであると思った。

(池邊会長) とても大事な視点である。子どもたちは、気候変動やサステナビリティ、グリーンインフラなどについて、総合学習等でも学ぶことになるので、小中学生に街美化アダプト制度のボランティア活動に参加してもらったり、学年を超えて一緒に活動できたりするとよいと思う。また、そうした活動に対して、企業が支援をしてくれるということも必要になってくると思う。

街路樹はきれいだが落ち葉に困るということは全国的な課題である。サクラも花の時期はきれいでよいが、花が散った後は、皆さんもご存知のとおり、花びらやがくが排水溝に集まり雨水管を詰まらせて大変である。そうした実態を子どもたちにも知ってもらいながら、自分たちのまち相模原のブランディングとして、「幸せな街路樹」を育てていくという気持ちを子どもたちにも持ってもらえると思う。

(石川委員) 方針案26ページ「具体的な取組施策」の「管理目標」について、「良好な樹木の状態を維持するため、また、路線において美しく統一性のある

樹形管理の指針とするため、歩道幅員や樹種の条件から目標樹形を設定し適正管理を行うこととします。」とあるが、ぜひこの管理目標に沿って取り組んでもらいたい。

この審議会で検討を進めている間、市から緊急剪定業務の発注があり、私どもの組合員も受注して剪定作業を進めている。今回緊急としているのは、建築限界内に張り出した枝を切り落とすもので、自動車等が接触しないように決められた範囲内の枝を剪定しているものだが、市役所から消防署に向かう通りのクロガネモチの剪定は、美しい樹形とはとても思えないものである。緊急のためやむを得ない面もあるが、美しい樹形を考える上で、「幸せな樹形」という言葉をうまく活用できるとよいのではないか。

場合によっては、歩道側も車道側と同じ高さに枝を落とした方が、樹形としてはバランスがよいこともある。そうした応用の利くような管理があってもよいと思う。

(池邊会長) 私も、都市再生機構では、クロガネモチやサンゴジュを何十本も伐採した。せっかく団地をリニューアルしても、周りの植栽が美しくなく、常緑樹のため暗く感じるということがあったためである。最近では、黒くて分厚い葉の常緑樹はあまり流行らないため、市も今後の樹種選定ではそうしたことを考慮し、気持ちが明るくなって心の健康に役に立つような明るい色の樹種に変えていくとよいのではないか。

かつては公害に強いということで常緑樹がよく使われたが、今後は電気自動車が主流になると考えられ、公害対策の必要性も薄れてくるため、樹種を順次変えていくということも必要だと思う。来年度に策定する管理計画の中で、そうしたことも検討できればと思う。

(梅澤委員) 方針案26ページの「目標樹形の設定」について、「良好な樹木の状態」とあるが、樹木にとって良好な状態と捉える方が多いのではないかと思う。本来、樹木は剪定しない方が元気なものであり、樹木自身が枝を出せるだけ出して伸ばして、落とせるだけ落とす方が、樹木からすればよい状態である。

ところが、街路樹として捉えるとそれではいけないのであり、例えば「街路の状態を維持するのに良好な」といった表現にしてはどうかと思った。

また、吉田委員の「人を育てる」というお話を聞いてはっとしたが、世代を繋いでいくという視点も大きく入れられればよいと思った。

(相武国道事務所 斉藤副所長) 宮本の代理で今回初めて出席させていただいた。普段は道路の維持管理を担当しており、宮本も話していたかもしれないが、景

観よりも倒木などの安全面からどうしても街路樹を考えることになる。また、街路樹で信号機や標識が見えないとか、雑草で歩道が歩きづらいといった、みどりに関する意見が一番多く寄せられているところでもある。

この審議会では安全面のほかに、景観の観点や、害虫等の住民に身近な影響などについても意見が交わされているということが、本日参加してよく分かった。

(石川委員) なぜ道路に街路樹があるのか、なぜ必要なのかということも、方針案で考えていけるとよいのではないか。道路を管理する立場からすると難しい面もあるかもしれないが、街路樹を必要のない抑え込むものとして捉えるのではなく、道路に街路樹があるとみんなが嬉しいということを前提に、管理として最低限行わなければならないことを示し、この答申書のテーマに沿って相模原市にとって立派な街路樹を形成していくということに取り組んでいければと考えている。

(大沢副会長) 答申書の内容はこれでよいと思っている。一方で、この方針案はあくまで基本的な考え方を取りまとめたスタートラインに過ぎないのであって、これはゴールではなくスタートである。来年度には管理計画の検討もあり、そこでの議論を進めるのと同時に、「街路樹管理方針」を策定して終わりではなく、これをバージョンⅠ、バージョンⅡ、バージョンⅢとアップデートしていくことが必要である。技術基準が変わったり、街路樹に対する市民の皆さんの想いもニーズによって変わったりすることがあると思うので、今後10年間は同じ方針ということではなく、ぜひバージョンアップしていただければと思っている。

(3) 今後のスケジュール・進め方

事務局より説明を行った。

(4) 相模原市街路樹管理計画の策定に向けて

事務局より説明を行い、次のとおり意見等があった。

(池邊会長) サクラだけは別格だと思うが、街路樹が美しいことによって住む人が増えるという考え方は、以前はなかったものである。

私は今回、相模原市の「幸せな街路樹」というものを考えたときに、お子さんも含めて相模原市を「いいな」と感じて住む人が増えたり、若い子育て世代が移り住んでくるような、町田市などはそうした狙いを持っていると思うが、そうした考え方は今までとは違う街路樹の捉え方だと思っている。

(辻野委員) 説明資料 22 ページの「街路樹の配置状況」の地図について、データで提供してもらうことはできないか。東京都では大きな地図を買うことができるが、相模原でもこのような地図が欲しいと思っていた。

(路政課長) データ容量が非常に大きくなるが、お渡しすることは可能である。

(土木部調整官) 今回は配置イメージをつかんでいただくために資料にしたものである。来年度の審議では、先ほど町田市の事例でお示したような地図を作成しないと、具体的な取組場所の把握ができないのではないかと考えている。来年度は、地図データやイメージを精査していくため、その際により分かりやすい資料としてお示しできるものと考えている。

(田嶋委員) 来年度の審議に向けての話となるが、福岡市では、花とみどりがあふれるまちにしたいということ、優先順位の高い政策として掲げている。街路樹の維持管理とは別の次元で、都市としてのブランド力を花とみどりで高めていこうという積極的な取組をしている。また、福岡市では企業のアダプト活動も盛んに行われており、相模原市の取組の参考になると思う。

ところで、今日は相模原駅南口から降りてきたが、駅前が寂しいと感じた。相模原市の「顔」となるエリアを考えたときに、市役所などの行政機関は駅から離れているが、市役所エリアが「顔」なのか、駅前が「顔」なのか、来年度は、そうしたことも街路樹を通じて皆さんと一緒に共有しながら考えていければと考えている。

(池邊先生) 私もいろいろなところへ伺う機会があるが、駅前にみどりがあることで、少し涼しく感じるとか、心が安らぐといったことがある。自動車の量も減ってきており、樹木を植えられる場所の確保もできるようになるのではないかなと思うので、ぜひ検討をお願いしたい。

その他

本年度最後の会議であることから、各委員から一言ずつあいさつを行った。

(若山委員) 審議会に出席して、本当に私の知らないことばかりだった。とても勉強になった。本当にありがとうございました。

先日、自治会の方から、街路樹の枝が伸びており、葉が付いている時は枝があることが分かるが、今は葉が落ちて枝しかないため分かりづらく、目線の高さにあつて危ないとの話があった。細い枝であり、わざわざ市役所に電話をして切ってもら

うほどでもないため、勝手に切ってよいかと相談された。街路樹は市が管理しているものであり、どう答えてよいか分からなかったため、審議会に出席した際に確認していただくこととしたので、教えてもらえるとありがたい。

(土木部調整官) 原則をお話すると、街路樹は市の財産であり、市役所に連絡していただき市が剪定することとなる。ただし、手で折れる程度の太さの枝などは、切っていただけると市としては助かる場所である。

(辻野委員) ここまで答申書をまとめてくださった事務局の皆さんは、本当に大変だったと思う。どうもありがとうございます。

私は自ら公募委員に応募し、会議では言いたいことは言わせてもらい、迷惑をかけたかもしれないが、本当にこの審議会に出てよかったと思っている。

ひとつだけまだ気にかかっていることがあり、今は寒い季節のため分からないかもしれないが、近年の夏場の猛烈な暑さの中で、資料では街路樹4本のうち3本を切って更新するとの説明があったが、樹木を一時的であれ伐採することで、屋外で働く方たちがどうなってしまうのか心配である。命に関わるような強い日差しであり、樹木更新の過渡期をどのように乗り切っていくかということ、今後議論できるかどうか気になっている。

審議会では、いろいろなお話が聞けて本当に出てよかったと思う。ありがとうございました。

(伊藤裕子委員) 私も一市民として、縁があって参加させていただき、いろいろなことが分かった。毎回、資料を的確に、新しい情報も含めて、図や表などを交えながら分かりやすく示していただいたので、私自身の勉強にもなった。近所に住んでいる方々も、街路樹で電灯が隠れていることなどをよく見ている、私に話しに来る。

たかが木、されど木といえる。人との関わりから、環境、地域など、様々な問題を含んでいて、一筋縄ではいかないと思うし、将来的なビジョンに向かって、皆の知恵を出し合っていないと、この方針を策定しただけで簡単に解決できる問題でもないと感じている。

街路樹の課題に対して、市がこのように取り組んでいるということ、皆さんに分かって欲しいと切に思っている。

(吉田委員) 今回審議会に参加して、取り扱うテーマは樹木であったが、地域づくりであったり、まちづくりであったり、人づくりであったりということに繋がっていく取組であるということ強く感じた。粘り強く、誠意を持って向き合いながら取組を進めていくことが大事であると思った。

(田嶋委員) 皆さんお疲れ様でした。

美術大学と街路樹がどのように関係するのかわかれた方もいるかもしれないが、私たち美術の側から支援できることもあるのではないかと考え、参加させてもらった。

先ほど、官民連携の話をしたが、企業や市民との連携のほかに、八王子市と相模原市には大学がたくさんあり、人材という意味では、大学との連携ということも今後ますます重要になってくると考えている。

引き続き、支援させていただけたらと考えているので、よろしくお願いします。

(梅澤委員) この審議会に参加し、ここに出席されている皆さんは、職業や知識の土台も異なるため、同じ資料に対してであっても、それぞれ異なる視点からの意見が出され、参考になると感じた。私は職業柄、樹木を専門的に見てしまうが、吉田委員の「人を育てる」とか、田嶋委員の「サステナビリティ」、池邊会長の「私たちの街路樹」という考え方は非常に参考になった。これからは、私もそういう広い視点から樹木を見ていきたいと思っている。また来年度からもよろしくお願いします。

(伊藤紀子委員) 先ほど田嶋委員から、福岡市での企業のアダプト活動の話があり、以前に三菱重工の方からF・Cボランティアの活動に参加したいと相談があったことを思い返した。当時は時間的に折り合いがつかずに頓挫してしまっていたが、市内の企業で相模原市に貢献したいという企業があることを思い返して、そうした連携を改めて模索したいと思った。

また、市民活動サポートセンターでは、中高生を対象に夏季休暇期間のボランティア講座を開催している。コロナ禍で活動が制限された時期があり、その後は受け入れをしていなかったが、今年度は中高生のボランティア活動の受け入れ団体として、一緒に活動しようという投げかけを行いたいと思う。改めて街美化アダプト活動を広く進めていきたいと感じた。ありがとうございました。

(石川委員) 答申書の内容とはやや異なる話となるが、最近サクラの害虫（クビアカツヤカミキリ）が大発生している。伝染性が強く、群馬県では大発生して、これから開花時期を迎えるというのに、伐採をどんどん進めているという報道があった。過去には、神奈川県内でウメの伝染病が流行して、個人のお庭のウメも切らなければならないということがあった。サクラの害虫が市内にも移ってこないか心配で、万が一広がってしまったら、この市役所前通のサクラもみんな切るようになってしまうのか、怖いと感じている。

(相武国道事務所 斉藤副所長) 街路樹の管理については、相模原市と同じ思いを持っている。安全面や環境面からも、今回答申書として取りまとめたことを生かし、市に協力できることや、市と一緒に考えられることがあると思うので、引き続きよろしくお願ひしたい。

(大沢副会長) 先ほどもお話ししたが、「街路樹管理方針」の策定はあくまで通過点であり、これから実行計画を策定し、そして実行していくことが大切だと思っている。

その中で、人づくり、すなわち担い手を今から育てていかないと、非常に危ないことになると思っている。これから本格的に人口減少が進む中で、担い手がどこでも足りなくなる。造園業界の皆さんの担い手がいなければ、予算を用意できたとしても誰も仕事を受けてくれないことになる。行政の担い手にも課題があるし、市民の皆さんの担い手もどのように確保育成していくのかということ、民間も含めて、これから真剣に考えなければならない。将来に持続的に繋げていくための人づくりということについて、今から取り組む必要がある。

今年には戦後81年となるが、先ほどの事例にあった仙台市の並木道も、空襲ですべて焼けてしまい、その後、当時の技術者たちが将来に想いを込めて植えたものである。そうした木々から私たちが今その恩恵を預かっているに過ぎないのであって、この審議会でも、次の世代にこの相模原の素敵な街路樹をどのようにきちんと引き継いでいくのかという視点でぜひ考えていきたいと思っている。

(池邊会長) 皆さん、本当にお忙しい中であって毎回とても出席率が高く、様々なご意見をいただき、事務局の資料も毎回の確に議論に合致した資料を準備してもらい、本当に感謝している。

街路樹のことは、なかなか一般の市民の方々には興味を持っていただけないものであるが、この答申書では「幸せな樹形」や「幸せな街路樹」というコンセプトを打ち出すことができ、街路樹が相模原市民にとって幸せをもたらし、相模原市が「街路樹がきれいだね」「街路樹にみんなの愛情がこもっているね」と言われるようになってほしいと願っている。

仙台市や名古屋市など、街路樹の有名なところでは本当にきれいだ、例えば多摩市では今後人口が減少していく危機感もあり策定したものである。相模原市は、幸いまだそのような状況にはないと思うが、今後、街路樹がもっと美しくなることで、相模原市が有名なまちになるということや、「幸せ」という市民の方々に分かりやすい言葉をコンセプトに、街路樹を通じてお子さんから高齢者まで「幸せ」になるということが達成できればと考えている。

先ほど「猛烈な暑さ」というお話もあったが、相模原市に来たら街路樹で涼しい

という歩行者にとって快適な空間として、ドライバーにとっても美しい街路として、そうした街路樹による景観を形成することができればというふうに思っている。

(池邊会長) 会議録の作成については、会長一任とすることで、よろしいか。

(総員) 異議なし

以 上

相模原市街路樹の管理方針・計画の策定に関する審議会
委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	池邊 このみ	千葉大学 グランドフェロー	会 長	出席
2	大沢 昌玄	日本大学 教授	副会長	出席
3	田嶋 豊	多摩美術大学 教授		出席
4	宮本 雄一	相武国道事務所 事務所長		代理
5	石川 正典	相模原造園協同組合 理事		出席
6	伊藤 紀子	F・Cボランティア 代表		出席
7	梅澤 将司	特定非営利活動法人 みどりのお医者さん 理事		出席
8	吉田 貴亮	相模原市自治会連合会 理事		出席
9	伊藤 裕子	公募委員		出席
10	辻野 泰子	公募委員		出席
11	若山 美代子	公募委員		出席